

なす
最後までしっかりと
いいなすをとる！



今回は令和4年度に連載した「なす太郎のポイント指南」のおさらいです。連載を楽しみ今年栽培にも内容を活かしていただいている方もみえるかと思えます。もう一度要点を振り返ってみましょう。

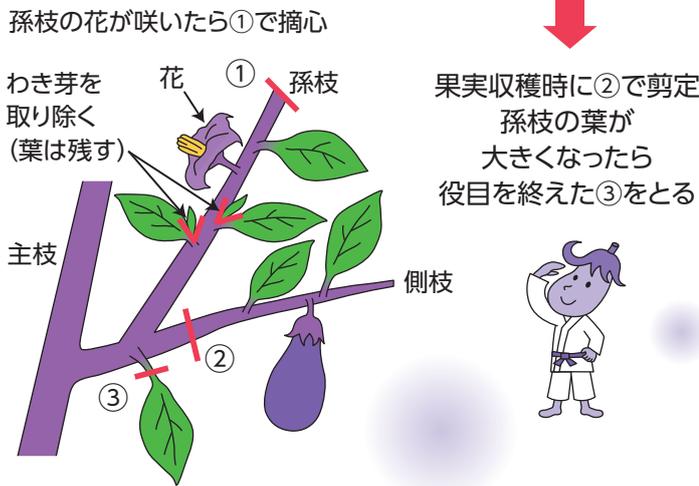
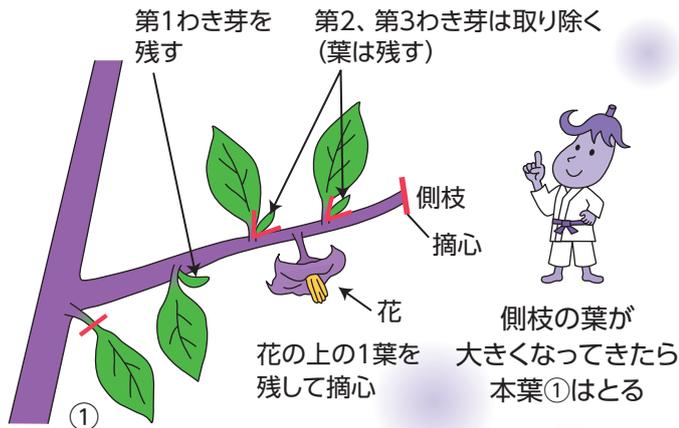
良い花
○長花柱花
×短花柱花



長花柱花 雌しべ(花柱)が雄しべよりも長い花が正常です。花をよく観察してみてください。
雌しべが雄しべと同じ長さか短い状態の場合(短花柱花)は栄養不足、日照

不足、高温などの影響で樹勢が弱っています。即効性のある追肥が必要と考えましょう。

梅雨時期等で降雨が続く時期は、過湿になると病気の発生や助長が心配されるため、灌水を控えます。しかし、実を成長させるのに追肥が必要な時期ですので、畝の肩の部分のマルチに穴をあけて粒状化成(NK808など)を施します。また、樹勢が弱っている場合は葉面散布を施します。葉面散布とは、専用の液肥を霧吹きなどで葉や生長点に吹きかける方法です。



整枝・剪定

なすは生育旺盛です。左図のように整枝・剪定を行うことで余分な枝葉を取り除き、樹冠への日当たりをよくし、良質な果実の成長を促します。

秋口の管理

まだまだ暑いので、9月も8月と同様に十分な灌水をしましょう。引き続き収穫が多い時期なので、適正に施肥します。葉かきも適宜行いましょう。今後は台風の影響が心配されるので、支柱の補強や排水路の点検をしておきましょう。

★先端部の摘芯

9月中旬に咲いた花を目安として主枝・側枝の先端部を摘芯しその後は脇芽で収穫を得るようにします。この摘芯は必ず行いたい作業です。自分の手の届く範囲の先端で枝先をつまみ取り、誘引ネットなどに固定します。



先端をつまみ取るとなすは「親のかたき!」とばかりに側枝をどんどん伸ばし始めます。こうなればしめたもの、側枝で収量を取ることが大事です。

JAひがしみのでは1日1袋からでも出荷できる「なす生産拡大大作戦」でなす生産者を増やそうとしています。栽培やJAへの出荷に興味のある方はアグリセンターへぜひご相談ください。